

特別養護老人ホーム いこいの杜

1 基本方針

入居者が、楽しく生き生きと安心して過ごすことが出来る環境作りに努める。

よりよいサービスを提供するために、専門職としての倫理と誇りを持ち、技能の研鑽に努める。

入居者、家族、地域住民との連携を強め、地域に開かれた信頼される施設づくりに努める。

2 利用者の状況（令和3年3月31日現在）

（1）入退所の状況

定員	前年度末 利用者数	令和2年度中の入退所状況						利 用 延人員	年間平均 稼働率	年 度 末 利用者数
		入所	退所	退所理由別						
				施設 移管	契約解除 (入院等)	家庭 復帰	死亡			
80人	79人	19人	20人	0人	9人	0人	11人	28,046人	96.05%	78人
元年度 80人	80人	14人	15人	0人	11人	0人	4人	28,102人	95.98%	79人

（2）利用者の介護度別人員

性別	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
男 性	0人	0人	1人	11人	9人	21人
女 性	0人	0人	3人	26人	28人	57人
計	0人	0人	4人	37人	37人	78人

(平均介護度4.42)

3 事業の実施状況

（1）多職種協働によるチームケアの充実

ア 認知症ケア

(ア) 認知症の方が「生きる自信」が持てる介護の推進を図るよう、パーソン・センタード・ケア（その人らしさ）やリレーション・センタード・ケア（関係性）、ユマニチュードの手法等認知症介護の基本の大切さについて DVD 視聴研修を実施した。（動画で学ぶ『認知症』・ユマニチュードの手法に関する動画8本による研修を4月～8月の間5回実施し、全介護員が視聴。）

(イ) 後期にサービスの相互評価や PEAP を用いた環境整備（キャプション評価）を各ユニットで実施した。体験研修は、感染予防のため中止した。

イ 口腔嚥下機能

(ア) 歯科医師助言のもと、毎月の口腔ケアマネジメント計画を作成し、口腔ケアを実施するとともに、「食べる楽しみ」を継続できるよう、ダウンテンポの食支援に取り組んだ。

(イ) 食後の口腔ケアに重点を置き、粘膜・歯・舌の清掃の仕方について、その実際を動画で学んだ。

ウ 事故防止

(ア) ヒヤリハットのC「気づき」の記載と対応策検討を進め、事故防止に取り組んだ。

(イ) なくならないヒヤリハットに焦点を当て、集中的に皆で考える研修を実施した。

エ 身体拘束・虐待防止

(ア) ケア上の悩み等をユニット内で話し合い、認知症ケアの基本をもとに、不適切ケアに対する意識を高めた。

(イ) 身体拘束については、自身に置き換えて、拘束について考える研修を実施した。

(ウ) 虐待に関するアンケートの結果、ケア上のイライラ感が表出した。一因となっている事例について、事務局信原氏を招いて事例検討会を実施し、多職種間で課題を共有し、ケアを見つめ直す機会を設けた。

(エ) 3ヶ月毎に実施予定の身体的拘束適正化検討委員会及び虐待防止検討委員会の2回目以降の会議は、コロナ対策のため、紙面により第三者委員に意見を伺った。

オ 医療的ケア

(ア) 医療と介護が連携して、安全な医療的ケアを実施した。喀痰吸引研修受講1名。採用職員2名実地研修修了。喀痰吸引学習のDVD視聴研修を実施した。

カ エンド・オブライフケア

(ア) その人らしいQODを尊重したケアについて、意識の共有を図った。

(イ) 看取りケア(エンジェルケア)の研修をユニット毎に実施した。4月～1月に3名看取った。

キ 自律支援

(ア) セラピスト助言のもと、福祉用具の安全かつ適切な使用を促進した。自立度を考慮した、生活リハビリにより機能維持向上や褥瘡・拘縮予防を図り、その人らしい活動を支援した。

(2) 経営改善・基盤の確立

ア 新型コロナ感染予防に関する情報収集を図り、感染症対策委員会を中心に新型コロナウイルスの感染予防対策を検討し、マニュアルを作成した。マニュアルに基づき、予防策の徹底に努めた。感染症対策における鳥取県の現地指導を受け、取り組みの高評価を得た。発生時想定に対応シミュレーションをユニット毎に実施した。鳥取県の高齢者施設における新型コロナ対応啓発動画作成に参画し、2月15日に業者による動画収録が行われ、3月より鳥取県 YouTube で配信された。マスク、消毒、防護服等衛生用品や対策物品の出費が増加した。

イ 平均稼働率96.05%で、目標を達成している。

ウ 1階ユニットにカビが発生し、滅菌・防カビ薬剤を塗布した。

エ 1月にエアコン室外機が故障し、応急的な修理で復旧したが、該当ユニットは数日間ストーブで暖をとった。

オ 防災、減災を目的に各訓練を計画的に実施した。

カ 理念・認知症ケア・身体的拘束適正化・虐待防止・新型コロナ感染防止等の研修を全パート職員に実施し、質向上と協働意識の醸成に取り組んだ。

(3) 職員資質の向上と人材育成

ア コロナ禍により OFF-JT や外部講師の招聘を自粛しているため、(株)お茶の水ケアサービス学院のオンライン研修を導入し、各種の研修を実施した。とても分かりやすい説明と幅広い内容の講義が整っており、大いに活用することが出来た。

イ 面談を通じた個別研修計画により、各自の目標を確認し、自己成長を図る取り組みを行った。

ウ 話し易い職場醸成の一手法として、昨年度導入した QC 活動を継続し、メンバー間で話し合いを行った。活動は、法人内の WEB による実践報告会で発表した。(法人が動画撮影し各施設へ配布)

(4) 地域との連携・交流の促進

ア 新型コロナウイルス感染防止対策により、ボランティアや外部の受け入れ及び各種学校との交流を制限している。資格取得に必要な実習等は、状況を見ながら受け入れとなり、入居者に関わる場面はすべて中止となった。施設見学は、施設案内の作成動画を視聴する形式を取り、希望された学校に応じた。

イ 絵手紙・書道のアート活動は、通信講座とし、講師に作品の写真を送付、指導助言を頂いた。余暇活動は職員が継続し、楽しみのある生活の提供に努めた。

ウ コロナ禍、中の茶屋地区の一人暮らしの高齢者に手作り和菓子を提供し、心の交流を図った。

エ 介護労働安定センターの実務者研修の講師3名を派遣し、地域福祉推進の一端を担った。

(5) 労働環境の整備

ア 福祉用具を効果的に用い、介護負担の軽減に努めている。補助金を利用し、1階の臥位浴槽を10月に更新した。

イ 新型コロナウイルス感染防止対策実施による福祉従事者としての自粛等、新たな行動様式を継続している。先の見えない不安や負担感が排除されない。

ウ 勤怠システムが導入され、タイムカードで労働時間を管理している。業務の効率化、業務負担の軽減、時間外勤務の軽減に努めた。

エ ストレスチェックを実施し、個々のストレスや集団ストレス傾向の把握を行った。

オ 移乗用リフト、スライディングボード、グローブ、着衣チェアー、ローラースライドの活用により、「持ち上げない、引きずらない介護」を推進し、介護負担軽減に努めた。

カ いこいの杜が御下賜金拝受事業所に選定され、2月25日鳥取県知事により伝達。

4 実習、ボランティアの受入状況

(1) 実習の受入実績

実習受入先	受入期間	実人員	延人員
鳥取看護大学臨地実習	12月	4人	4人
介護労働講習施設実習	1月	1人	1人
高校生食事支援実習	10月	18人	18人
鳥取県警察学校介護実習	8月	36人	36人
計		59人	59人

(2) ボランティアの受入実績

書道、絵手紙、鳥取湖陵高校、赤ちゃん先生、最勝院、四季の写真展示、油絵展示、リアル粘土細工展示、水彩画展示（延べ41人）